

## 明星大学地域交流活動報告（2） — 明星大学の教育・研究と社会貢献 —

名 取 淳\*

地域交流センターの目的、明星大学の教育方針との関係、日野市との包括協定概要、および学部教育における地域交流の一例を昨年度の紀要「明星教育センター研究紀要第6号」で報告した。これに引き続き、今回は平成27年4月から28年12月までの地域交流センターの活動概要報告をする。以下の情報は、地域交流センターの調査および集計を整理したものである。

### 第1章 地域交流センター開設からの動き

#### 第1節 日野市との定期連絡会

明星大学は日野市との連携を深めるために定期連絡会を行っている。それは、月に1回定期的に行うものであり、平成27年9月より開始した。定期連絡会は平成28年12月までに15回行われた。その日程、場所、主な連絡調整事項は以下の表1の通りである。

表1 日野市と明星大学の定期連絡会一覧

	日程（場所）	主な連絡調整事項
①	平成27年9月25日（日野市役所）	・連携事業の進捗確認 ・大学祭における日野市PRについて 他
②	平成27年10月27日（明星大学）	・デザイン学部との連携について ・市長と学生による「ふれあいトーク」について 他
③	平成27年11月20日（日野市役所）	・三者連絡会（日野市、明星大学、実践女子大学） ・各連携報告、今後の連携について 他
④	平成27年12月24日（明星大学）	・高幡台団地の取り組みについて ・デザイン学部との連携について 他
⑤	平成28年1月27日（明星大学）	・日野市とボランティア学生との意見交換会開催 ・合同研修会について 他
⑥	平成28年2月24日（明星大学）	・高幡台団地視察 ・合同研修会について 他
⑦	平成28年4月15日（日野市役所）	・合同研修会について ・ひの新選組まつりの協力について 他
⑧	平成28年4月21日（日野市役所）	・四者連絡会（日野市、明星大学、実践女子大学、多摩信用金庫） ・各連携報告、今後の連携について 他
⑨	平成28年5月19日（明星大学）	・合同研修会について ・市内産業の活性化について 他
⑩	平成28年6月24日（明星大学）	・合同研修会について 他

\* 明星大学地域交流センター センター長

⑪	平成 28 年 7 月 21 日 (日野市役所)	・シェアハウスについて ・日野よさこい祭について 他
⑫	平成 28 年 8 月 16 日 (明星大学)	・シェアハウスについて ・市内産業活性化について 他
⑬	平成 28 年 10 月 7 日 (日野市役所)	・スタンプラリーについて ・星友祭展示について 他
⑭	平成 28 年 11 月 15 日 (明星大学)	・シェアハウスについて ・市内一斉清掃について 他
⑮	平成 28 年 12 月 22 日 (日野市役所)	・シェアハウスについて ・デザイン学部との連携について 他

## 第2節 地域活動及び諸団体との連携等の例

平成 27 年度および平成 28 年度に行われた地域および諸団体との連携事業について、(1) 公開講座・イベント、(2) ボランティア活動および(3) 学部・ゼミ活動に分けて、その一部を紹介する。この情報は、明星大学地域交流センターのウェブサイトの「地域活動報告書」に詳しく記している。

### (1) 公開講座・イベント

学部学科を中心として行われた公開講座・イベントの内容および時期等は、以下の表 2 の通りである。

表 2 学部学科等の公開講座・イベント活動一覧

講座・イベント名	主催部局	時期
公開講座『基礎からのサイバーセキュリティ演習』	情報学部	平成 27 年 4 月
青梅校生涯学習講座 16 講座	複数の学部	平成 27 年 4 月
シェイクスピア英語劇鑑賞会『ヴェニスの商人』	人文学部	平成 27 年 5 月
青梅市立美術館明星大学所蔵名品展	デザイン学部	平成 27 年 6 月
公開講座『デザインと暮らし』	デザイン学部	平成 27 年 6 月
「多摩ニュータウン学会講演会」	理工学部	平成 27 年 6 月
公開講座『身は語る』全 4 回	全学共通教育委員会	平成 27 年 7 月
「夏休み科学体験教室」	理工学部	平成 27 年 7 月
「明星サマースクールプロジェクト 2015」	人文学部	平成 27 年 8 月
イオンモール多摩平の森「キッズ 本格おしごと体験」	理工学部	平成 27 年 8 月
多摩動物公園×明星大学『アメリカの鳥たちに会いに行こう!』	図書館	平成 27 年 8 月
公開講演会『ストレスとの上手なつき合い方～』	心理相談センター	平成 27 年 10 月
公開講座映画『筆子・その愛-天使のピアノ-』上映&シンポジウム	人文学部	平成 27 年 10 月
特別講座公演会『忠臣蔵・武士篇』&ワークショップ	全学共通教育委員会	平成 27 年 12 月
日本文化学科シンポジウム『本がつなぐ日本と世界』	人文学部	平成 28 年 1 月
公開講座「ビーコン技術で変わる私たちの暮らし」	情報学部	平成 28 年 2 月
資料図書館展シェイクスピア没後 400 年記念特別展	図書館	平成 28 年 3 月
教育学科音楽コース「春の演奏会」	教育学部	平成 28 年 3 月

## (2) 学生ボランティア活動

学生を中心としたボランティア活動の内容および時期等は、以下の表3の通りである。ここでは、活動の他、活動への表彰をも記す。その他、年間を通じ、地域清掃、二水会、生活安全・交通安全活動（日野警察署）、また、児童館や子供会等へのボランティア、障害児学級訪問など、地域の皆様と交流しながら、幅広く活動している。

表3 ボランティア活動の内容および時期等

ボランティア活動・その他	時 期
地域の子供たちとの「たけのこ掘り」	平成27年 5月
体育会硬式野球部が地域安全運動に係り、日野警察署長並びに日野防犯協会会長から感謝状が授与	平成27年 6月
ボランティアセンター「第1回きらぼまつり」(大学近隣の方々への感謝の会)	平成27年 6月
日野市民でつくる防災・減災シンポジウムに参加	平成27年 7月
高幡台団地のお祭り支援	平成27年 7月
岩手県田野畑村での被災者支援活動	平成27年 8月
いわき明星大学と合同での被災者支援	毎年8月および3月に実施
三沢中地区育成会主催によるサバイバルキャンプ	平成27年 8月
日野市民活動フェア「かえるキャラバン」	平成27年10月
南平高校コラボ企画!繋ぐ～私たちが見た福島・宮城～	平成27年11月
防犯ボランティア隊MCATが地域安全活動等に係り日野警察署長から感謝状が授与	平成27年10月
多摩地域6大学合同「学生ボランティア活動報告パネル展&防災イベント」	平成28年 2月
熊本地震支援義援金募金活動	平成28年 4月

## (3) 学部・ゼミによる地域等における活動

学部学科のゼミを中心として行われた地域および諸団体との活動の内容および時期等は、以下の表4の通りである。

表4 学部・ゼミによる地域等における活動一覧

活動内容 (地域)	所属学部	時期
外国人にやさしい街づくりー英語がちょっとだけ話せるプロジェクト (伊東市)	人文学部	平成27年 5月
高幡台団地集会場にて100円サロン「憩い処明星」運営 (毎週金曜日に活動)	人文学部	平成27年 5月
出張理科教室 (栃木県)	理工学部	平成27年 7月
「明星散策探検隊」里山保全活動の一環として、八王子市の山林をお借りしたボランティア活動の実践	人文学部	平成27年 5月
フェアトレードカフェ	人文学部	平成27年 5月
日野市まちづくり市民フェアにて、地域の「防災教育」「廃校利用」「里山保全」「戦争遺跡」についての研究成果を発表	人文学部	平成27年 5月
日野市東光寺緑地における保全活動 (下草刈り・間伐・剪定・竹林管理・植生調査)	理工学部	平成27年 5月
ハロウィン in 多摩センター2015に参加	経営学部	平成27年10月
代々木公園で行われた「防災まつり」にて「情報伝達アプリ」を使った避難誘導・実地演習や、「仕分けアプリ」を使った訓練を実施	人文学部	平成27年11月

教育・保育セミナーワークショップ	教育学部	平成 27 年 11 月
「Next Eco Design 展 2015」デザイン学科プロダクトデザインの浅井治彦教授と学生が参加	デザイン学部	平成 27 年 12 月
八王子市都市戦略部都市戦略課、多摩信用金庫と共同で、「産学官連携による経済波及効果測定プロジェクト」に参加	経済学部	平成 27 年 12 月
環境・生態学系西浦教授が「多摩ニュータウン再生プロジェクトシンポジウム」にて講演	理工学部	平成 28 年 2 月
「青梅マラソン大会」フィニッシャータオルを本学学生がデザイン	デザイン学部	平成 28 年 2 月
多摩動物公園駅周辺の活性化について、ビジネスプランの発表会に参加	経営学部	平成 28 年 2 月
ゼミ合宿にて宮城県南三陸町で、被災者へのストレス緩和ボランティア	人文学部	平成 28 年 2 月
日野市地域活性化アイドル育成プロジェクト MegumiPV 撮影	経営学部	平成 28 年 2 月
横浜市経済局ビジネスプラン・ブートキャンプ「商店街の活性化」の取り組みで、投稿型問題解決サービス『よこづな』～隣人は力持ち～を提案、一般企業のプロジェクトに混ざり健闘、一次審査を通過	情報学部	平成 28 年 3 月
日野市観光振興課とのコラボプロジェクト開始	デザイン学部	平成 28 年 4 月
日本文化学科の勝又ゼミが桜美林大学の学部ゼミとの合同報告会を行う	人文学部	平成 28 年 10 月

### 第3節 連携事業調査アンケート結果

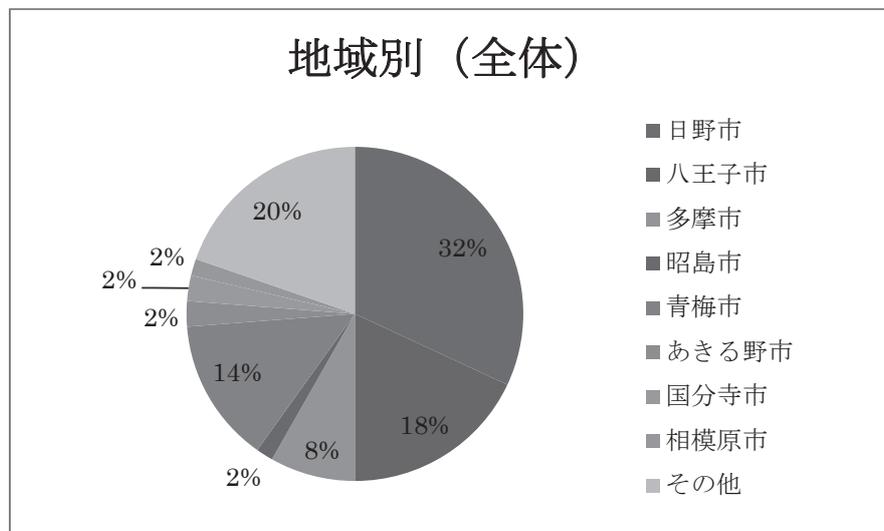
明星大学では地域および諸団体等との連携を現在、どれほど行っているか、その現状を地域交流センターは学部等に対して平成 28 年 6 月に調査を行った。回答件数 122 件あり、その地域別連携事例は、以下の通りである。

#### (1) 連携事業の地域別件数等

連携事業をその連携先に分類すると、図 1 の通りである。包括協定を結んでおり、大学の所在地である日野市が全体の 3 分の 1 弱で一番多い。それに続き日野キャンパスの敷地の半分を占める八王子市と平成 27 年度まで造形芸術学部をおいていた青梅キャンパスのあった青梅市が続いている。

図 1 地域別連携事業先

地域別 (全体)	
日野市	39
八王子市	22
多摩市	10
昭島市	2
青梅市	17
あきる野市	3
国分寺市	3
相模原市	2
その他	24
合計	122



(2) 連携事例

以上の 122 件の内、進行中の連携事業を一部、連携先および活動概要、活動主体等を以下の表 5 に紹介する。

表 5 学部の連携事業例

連携先	事業内容	活動主体等
自治体	「自然環境保全活動に関する協定」	教員、ゼミ活動、ボランティアグループ
自治体	「森づくり協議会」	教員、ゼミ活動
自治体	「都市計画審議会委員」	教員
自治体	「市景観審議会委員」	教員
公益財団法人	「学生生徒への奨学援助」	教員
自治体・地元企業	「フォーラム運営委員」	教員
自治体	「再生検討会議委員」	教員
自治体	「市民大学講座講師」	教員
自治体	「エコロジー村炭焼き活動」	教員、ゼミ活動
自治体	「スマートインターチェンジ地区協議会座長」	教員
自治体	「井戸水位を調べる会講演講師、地下水調査助言」	教員
自治体	「緑地保全活動に関する協定」	ゼミ活動、ボランティア活動
自治体	「環境情報センター運営委員会委員」	教員
自治体	「水と緑の会議委員」	教員
自治体	「地震観測」	教員
自治体	「クリスマスイルミネーションのデザインおよび制作」	ゼミ活動
自治体	「小水力発電を考える会副委員長」	教員
自治体	「入札及び契約等監視委員会」	教員
自治体	「人口ビジョン及び総合戦略策定に係る懇親会メンバー」	教員
外国	「公益財団法人国際センター学校建設活動」	教員
自治体	「大学図書館内への郷土資料棚の設置」	図書館
自治体	「生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭～」	学部学科
商工会議所・警察署ほか	「ご当地キャラクター作成と活動」	学部学科
地域企業	「活性化プロジェクト・マラソントオルのデザイン」	学部学科
自治体	「学生制作の『巨大だるま』駅前ロータリーに展示」	学部学科
自治体	「市活性化プロジェクト」	学部学科
自治体	「男女平等推進計画委員会委員長」	教員
自治体	「市防災委員会委員」	教員
自治体	「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員」	教員
自治体	商工会議所「外国人にやさしい街づくり」	学部学科
地元 NPO 法人	「ほうさい祭り 情報伝達アプリを使った避難訓練」	学部学科

自治体	「子ども食堂 フードバンク」	ゼミ活動
自治体	「里山保全活動」	ゼミ活動
台団地自治会・UR 都市機構	「多世代交流イベント」	ゼミ活動
自治会	「地域住民の交流促進」	ゼミ活動
地域協議会	「ふれあいサロンへの学生の派遣」	ゼミ活動
自治体	「苦情申し立て第3者委員」	教員
自治体	「データ活用についての連携 フードバンク・こども食堂」	教員
団地自治会	「100円サロン『憩い処明星』」	学部学科
自治会	「自律移動型ロボットによる市内の1km超の実環境コースを自律走行する公開実験」	学部学科
自治体・商工会工業部会	「ものづくりの楽しさ応援プロジェクト」	学部学科
地方公共団体や企業等	「全日本マイクロマウス大会 2016」	学部学科
自治体	「市オープンデータを用いた地域問題解決のための連携プロジェクト」	学部学科
自治体・地元金融	「産学官連携による経済波及効果測定プロジェクト」	教員
自治体・観光協会	「市の外郭団体を通してのインターンシップ」	学部学科
自治体	「ハロウィン祭りへの出店」	学部学科
団地商店街	「商店街活性化事業」	ゼミ活動
地元金融	「多摩地区中小企業次世代育成講座」	教員
教育委員会・保育所等	「教職・保育インターンシップ」	学部学科
教育委員会・保育所等	「教育現場等からの講師派遣」	教員
自治体	「ちょこっと散歩会（健康運動事業）」	教員

## 第2章 連携活動の一例

ここでは地域交流センターが主体となって行っている活動を3件紹介する。それは、平成28年6月に実施した日野市との合同研修会、平成29年4月より運営される高幡台団地シェアハウスの運営準備、および八王子市との包括協定の締結についてである。

### 第1節 日野市との合同研修会

平成28年6月29日（水）、日野市の職員と明星大学の教職員が明星大学に集まり、研修会を行い、その後に情報交換会を行った。これは、日野市と明星大学との包括協定を締結して1年を経過したところでの振り返りと、協力関係を確認するためであった。参加者は、総勢約130名ほどであった。日野市は、副市長、教育長、部・課長職を中心に40名強集まった。明星大学は、副学長、学部長、研究科長、教育研究機関長、事務局長、事務局次長、課長、学生を中心に90名近く集まった。明星大学は日野市に昭和39年に開講し50年を超える中で、初めての大規模な交流であった。これを機に、日野市と明星大学は、更なる協力関係を強固なものにした。この研修会の次第は、次の通りである。

- 司 会 学生 (2年)
- オープニング 吹奏楽の演奏
- 大学側挨拶 副学長
- 市側挨拶 副市長
- 基調講演 「データでみる日野市とまちづくりの課題」  
明星大学教員 (理工学部)
- 現状報告 ①日野市企画部企画経営課長  
②明星大学教員およびゼミ学生  
③明星大学ボランティアセンター学生
- 講評 ①日野市企画部長  
②明星大学事務局長
- 懇親会

## 第2節 高幡台団地シェアハウス

日野市との包括協定を結んだ際の約束事の一つである「団地活性化活動」のためのシェアハウスについて紹介する。この連携事業は、UR都市再生機構および日野市の人的支援および経済的支援を大きく受けての実施である。平成26年度より準備が始まり、平成29年4月の実現を迎えた。

- 趣旨 今後、高齢者の見守り活動の実施に向け、学生が団地内に住み込み、朝夕の安否確認やちょっとしたお手伝い (高いところの電球交換、ゴミ出しや簡単な掃除など)、地域イベント参加等。
- 関係団体 日野市、UR都市再生機構、高幡台団地自治会および明星大学
- 入居開始 平成29年4月
- 住居場所 高幡台団地 (日野市程久保650)
- 住居個数 3戸 (1戸当たり2人のシェアルーム)
- 入居当該者 明星大学学生 (6人)
- 日野市助成 3戸に対して月額UR家賃の半額補助 (1戸当たり上限3万円)
- 学生への公募 平成28年9月～11月
- 学生への説明 説明会および現地見学会を実施
- 出願者の選考 書類審査および面接 (当事業の趣旨の理解を確認)

## 第3節 八王子市との包括協定の締結

八王子市とはこれまで大学コンソーシアム八王子等を中心に多くの連携を既に行ってきた。これを連携事業の窓口を定め、諸活動を一元管理することにして、各活動を横断的に見ること、そして大学と市だけでなく地域企業の協力も得ながら、諸力融合による新たな課題解決への取り組みを推進するために包括協定を結ぶこととした。

### (1) 協定概要

連携活動の主な事項は、下記の通りである。また、八王子市は市制百周年を平成29年に迎えるため、この際のイベント等に明星大学は、学生を中心に参加協力する旨とした。

- ① 経済波及効果の分析 八王子市の実施する事業について経済波及効果を分析し、市の政策の企画立案を支援する。
- ② 市内中小企業および商店街との交流 市内中小企業の研究・開発の場の提供、技術力の高度化、製品の高付加

価値化に向けた市内中小企業と市内大学との連携の促進をする。空き店舗に関する研究を行う。

- ③ 八王子市多摩ニュータウン再生 八王子市の多摩ニュータウン再生懇談会の委員の参加と、鹿島・松が谷地区などの多摩ニュータウン再生について、ゼミ・研究室や学生の活動の場として大学連携事業を推進する。
- ④ 学生のイベント参加 市政百周年記念行事への協力を行う。八王子いちょう祭等への市のイベントに積極的に参加する。

## (2) 締結までの日程

- 平成28年5月 包括協定を締結する旨を双方で確認
- 8月 今後のスケジュールを決定
- 10月～11月 連携概要を調整
- 12月27日(火) 八王子市長と明星大学学長によって締結式を挙行(八王子市役所内)

## 第3章 今後への展望

地域とは何であろうか。それは専門書に定義がなされているが、明星大学地域交流センターでは、世界という表現と同様に、様々な解釈を受け入れる。それは、小さくは大学近隣の地域から、広くは世界中の地域を対象として交流を行うものとしている。そして、この交流も様々であり、その枠はない。既に報告をしたように、地域交流は市内一斉清掃における近隣地域への支援、日野市内の祭りへの支援、米国の高校生と本学学生との交流、近隣団地シェアハウスを通じた高齢者支援、八王子市の社会人教育への教員派遣、日野市と実践女子大学との共同活動、桜美林大学の某ゼミと本学の某ゼミとの共同発表会、日野市の教員研修への教員派遣、地元商工会の活性化支援、などの交流への支援を行っている。地域交流センターは、地域や団体の問題解決を直接行うセクションではない。要望に応じて、接点を探したり、作り出したりするのであり、その目的は、学生の活動や教員の研究の場を作り出すためである。それが地域や団体の問題を明らかにしたり、解決につながったりしていく。このような活動のために今後は、これまでの活動に加えて、以下のことを目標に活動をしていくこととしたい。

- 地域の課題解決に向けて日野市以外にも継続的な協議を行う。
- 地域を対象とした学生主体の授業運営を促し支援する。
- 教育課程編成にあたり、学部で地域の現状を理解するための機会を準備する。
- 公開講座について、学部間調整をして系統だったシリーズを開発する。
- 高齢者の学びの機会を様々な方法で開発する。
- 大学間の連携を促進し、学生間の活動および職員間の共同SDの交流の機会を開拓する。

大学はその地域にありながら、その地域の一般住民との関係は遠い存在であった。特に学生は4年間の客であり、近隣住民とはトラブル以外では係ることが少なかった。これが地域活動を行うことで、地域の構成員となった。学生たちの活動や教員の地域貢献により、地域を経済的に大きく豊かにすることが直接の目的ではない。私たち大学の人材等は経済的存在ではなく、社会的存在である。物質的繁栄ではなく、人と人とのつながり、コミュニティーの活性化を進めたい。明星大学は、地域に主体的な人間の生活の場として、奉仕やボランティアを中心とした交流の場を作ることを行っていく。

以上